

「保護者への接し方」のポイントはこちらだ！

あなたは、子育てのことで、保護者と接するとき、保護者が前向きになる方法を知りたいと思ったことはありませんか。

ポイント 1

聴くこと

保護者が迷っているときは、話したいことがたくさんあります。保護者が話を出し切るまで聴くことが大切です。はき出し切ると、だんだん冷静になってきます。そうすると、保護者自身の思考が落ち着いてきて、自分を振り返るようになってきます。

(もしも、話が多方面にわたるようになってしまったり、混乱しているようでしたら、話の交通整理をするとよいです。)

ポイント ②

あせらないで

子育てに迷いが生じているときは、どうしてもすぐに何とかしたいと思いが強くなってきます。そのときは保護者に「あせらないで接していきましょう」「ゆっくり考えましょう」「一歩ひいて見てみましょう」と冷静になって考えるように支援することが大切です。問題の渦中にとらわれると、思考や判断が混乱してしまいがちです。迷いが生じているときこそ、落ち着いて考えることが重要だからです。

ポイント ③

どうにかしようとしな

相手に自分の考えを分かってもらおうとしても、解決に結びつくことは少ないです。「どうにかしようとする」と相手は逃げる」のです。つまり相手側の立場になって考えることが大切なのです。

言い換えれば「できることから始める」ようにすることです。できること・よい部分をふくらませると、それ以外の部分は小さくなったり引っ込んだりします。「何ができるか」に視点を当てて接することです。

ポイント 4

お父さんを

お母さんひとりだけが一生懸命がんばっている様子が見られる場合があります。孤軍奮闘をしているお母さんは、それだけで精一杯です。

その時は、お父さんの存在が大きな意味をもちます。お父さんが登場してくると、問題解決が少し早くなる傾向にあります。お父さんが児童生徒に真正面に取り組むことが、問題解決のキーポイントになることがあるのです。

ポイント 5

揺れている時期

思春期の子どもは、体の成長と心の成長にずれが生じているため、心が安定せず揺れ動いています。つまり思春期の子どもは、揺れているのが一般的であるということです。違う見方をすれば、心が揺れ動いているときにはその不安定さにより、問題行動を起こしてしまう可能性もあるということです。

自分の子どもが問題行動を起こしあせっている保護者には、揺れ動いている子どもの心を受け入れられるように接することが大事であるということに視点を当てて支援することが大切です。